

読書をするとはどういうこと？



よく人から読書をすすめられることはありませんか？
なぜ読書をするのでしょうか。それは読書には言われるだけの効果があるからです。そのひとつに「想像力」が身につくということがあります。想像力とは簡単に言えば「考える力」ですが、問題解決能力と言ってもいいと思います。たとえば…

・本棚の高いところにある本を取りたい。でも、本棚によじのぼって取るのはあぶない。だから、背の高い人に取ってもらった。

この場合は、【本棚の高いところにある本を取りたい】が【問題】です。でも、【本棚によじのぼって取る】のは、自分も周囲の人もけがをする危険があるということが【想像】できます。そして【背の高い人に取ってもらう】ことで、【解決】できました。もし、本棚によじ登っていたら、しなくてもいいけがをしていたかもしれません。

想像力は、自分の身を守る力になります。危険を避けるだけではなく、楽しく過ごすためにも大切な力です。普段本を読まない人は、短い話や、文字の少ない本、絵本などから挑戦するのをおすすめします。（英語の学習法にも、やさしい英語の本をとにかくたくさん読む、という方法があります）読書も技術ですから、練習が必要です。小学生向けの本を中学生が読んでいいのです。勉強だって最初はあいうえおや、1＋1を習うところから始まります。



本を読んで、新しいことを知ると楽しくなってきます。世界の解像度が上がり、様々なことが分かるようになると本当に楽しいですよ。文字が苦手なら、まんがでも図鑑でも写真集でも大丈夫です。まずは本を手にとって、お気に入りの一冊を見つけることから始めてみませんか？

返却忘れ、ありませんか？

☆名張市内小中学校の春休みは、本の貸し出しがありません。

3月中に必ず返却しましょう。また、長い間借りっぱなしの本はありませんか？ 特に3年生は卒業までに返すのを忘れないようにしましょう。（何年も前の卒業生が、ずっと借りていた本を持ってくることもあります。）

かばんの中、教室、机の中、家の中、よく確認してください。もし、自分が本を借りているかどうか分からなかったら、学校図書館で聞いてみましょう。

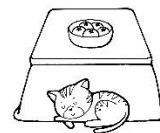
名張市学校図書館だより 中学校版
令和三年度 年度末号 発行…教育センター



今回のおしらせ

●なぜ読書なのか？

●おすすめの本紹介



名張市内中学校の2021年度おすすめ本紹介！

今年入った本の中から、図書担当の先生方のおすすめ本を紹介します！



名張中学校 『気にしすぎてうまくいかない』がなくなる本

著：大嶋 信頼^{おしま のぶより} 発行：あさ出版

少数派かもしれないけれど、悩んでいる中学生がいたら読んでほしいと思いました。文章も長すぎず、挿絵もあって読みやすいです。

悩み解決の糸口になりそうです。



赤目中学校 『なぜ僕らは働くのか 君が幸せになるために考えてほしい大切なこと』

監修：池上彰 発行：学研プラス

中学生になると、将来を考える機会が増えてきますが、必ず「何の職業に就くのか」ということを考えさせられます。そのため、将来に漠然とした不安を感じている人も多いと思います。そこでぜひ、働くことでどのようなことがうまれるのかを楽しみに考えてもらいたいと思ったからです。



桔梗が丘中学校 『数字でわかる! こども SDGs』地球がいまどんな状態かわかる本

監修：秋山宏次郎 著：バウンド 発行：カンゼン

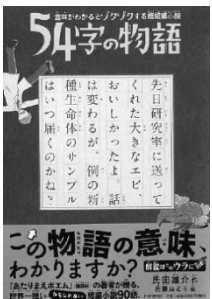
この本は具体的な数字やデータをもとに、地球の「いまの現実」について考えるきっかけになる一冊です。今話題となっているSDGs（持続可能な開発目標）ともつながっており、未来の世界を担う子どもたちにぜひ読んでもらいたいです。



北中学校 『給食アンサンブル』

著：如月かずさ 絵：五十嵐大介 発行：光村教育図書

給食メニューを軸に、中学生6人の悩みや思いが交錯する連作短編集です。お馴染みの給食メニューが出てきて懐かしさを感じたり、それぞれの中学生の思い出や悩みに共感できることが多いのではないのでしょうか。



南中学校 『54字の物語 意味がわかるとソクソクする超短編小説』

著：氏田 雄介^{うしだ ゆうすけ} 発行：PHP 研究所

1つの物語が54字なので、短い空いた時間でも読みやすく、ひとつひとつ興味を与えてくれるものばかりです。長文が苦手な子でも読めるものになるので、中学生に読ませたいものになります。また、最後に自分で作ってみるのもあり。なかなか難しく楽しめます。

一昨年、昨年度に引き続き、今年度も図書担当の先生のおすすめを紹介していただきました。小学校版で紹介した本の中で、中学生にもおすすめしたい本がありました。『囚われのアマル』（作：アイシャ・サイド 発行：さ・え・ら書房）と『キャラメル色のわたし』（作：シャウ・M・ドレイパー 発行：すずき出版）です。内容は、2冊とも差別や偏見とたたかう少女の物語です。『囚われのアマル』は、原書がニューヨークタイムズのベストセラーにも選ばれています。ぜひ読んでみてください。